

少子化に発展的に対応し、より良い教育環境を創造するために

3年(平成29年度)から平成31年度)以内に

寄中学校と松田中学校を統合します



寄中学校



松田中学校

町教育委員会では、平成27年度から町立幼稚園、小・中学校の適正規模・配置のあり方について、検討を進めてきました。その間、町の教育環境の現状と課題について、広く保護者や地域住民の考え及び意見を把握するためのあり方座談会や、アンケート調査、町民説明会、保護者説明会を実施し、町民意見募集(パブリックコメント)を通じて町民の皆さまのご意見も伺ってまいりました。町の将来を担う子どもたちにとつての最善策をさまざまな角度から検討し、議論を重ねた結果を提言書にまとめ、9月23日に町長に提出したところ、町は教育委員会の提言のとおり「3年(平成29年度)から平成31年度)以内に」を目的に、寄中学校と松田中学校を統合する」という判断に至りました。町の将来にとって大変に重要なことですので、ここに詳しくご報告いたします。

町の結論の要旨

松田町の将来を担う子どもたちの健やかな成長とより良い教育環境を公平に確保する観点から

◆寄中学校と松田中学校を統合し、対象人口が回復するまでの間、寄中学校は閉校することが最善と判断します。

◆寄幼稚園、寄小学校については、現状のまま存続することとします。ただし、3年の間で再度、保護者や地域のご意見を伺いながら、そのあり方を検証することとします。

Q1 寄中学校を、小規模校として残すことはできないのか？

A 小規模校や小規模学級の場合、子ども一人一人に教員の目が行き届くなどの利点はありますが、極端に生徒数が少ない場合には、「男女比の偏りが生じやすい」、「切磋琢磨する機会が確保しにくい」、「集団づくりが困難になる」など、子どもの成長にとってマイナスの影響が生じる可能性があります。

特に中学生は、学校行事などの集団教育活動や部活動などに制約が生じたり、多様な学習形態が取りにくい状況があります。

また、教科専門の教員の配置ができないなどの課題が生じてきます(単式学級編制から複式学級編制になると、すべての教科の教員配置が困難)。このため、子どもたちの健やかな成長と発達を第一に考え、より良い教育環境を確保するために中学校については、統合する方が望ましいと判断しました。

Q2 なぜ幼稚園と小学校は存続するの？

A アンケート調査や、地域や保護者の方々のご意見で「存続すべき」とする考えが多かったことや、小学生にとっては通学距離が長いこと、精神的な不安や通学上の安全を考慮して存続を選択しました。

幼稚園・小学校は、これまで以上に小規模学校の良さを生かした教育の充実に取り組んでいきます。

中学校統合にあたっての諸課題と今後の取り組み

寄中学校は、昭和22年に開校し、70年に及ぶ長い歴史と伝統を有する、地域の学び舎であり、コミュニティの核でもあります。長く親しまれてきた寄中学校が閉校することは、大変寂しく残念なことです。

しかし、将来ある子どもたちのより良い教育環境と健やかな成長

を支えるという共通認識に立つということが必要であります。特に昨今では子どもの成長や発達をめぐり、いじめや不登校、学力問題などの課題解決のための施策や取り組みが求められています。統合によってより良い教育環境づくりの契機にしていきたいと考えています。

中学校統合に向けては、通学手段の確保や心のケアなどさまざまな課題の解決を図らねばなりません。今後、保護者や教職員などの学校関係者及び地域代表者で組織する統合準備委員会(仮称)を設置し、色々の意見を伺いながら慎重に進めて参りますので、ご理解いただけますよう、お願いいたします。

なお、統合までの移行期間(平成31年度末まで)中に限り、寄中学校の新1年生については、寄中学校、松田中学校のいずれかを選択できるものとします。現在の寄中学校在校生については、引き続き通学していただき、卒業することになります。在校生に対する教育的配慮にも一層努めて参ります。

中学校統合にあたっての諸課題と今後の取り組み

(1) 通学手段の確保

子どもの安全確保を最優先し、路線バス通学の補助拡充及び増発など、通学手段について検討します。

(2) 児童生徒の心のケア

統合にあたって、急激な環境の変化に子どもたちが戸惑い、悩むことが予想されるため、心のケアをしっかりと行っていきます。

(3) 交流の活発化

中学校相互の日常的な交流をより活発に行い、統合時の生徒の心の負担や不安をできるだけ少なくするよう考えています。現在、松田小学校と寄小学校で年に1回交流事業を実施していますが、できる限り交流の回数を増やすことができるよう検討してまいります。